

白山南縦走線の植物

後藤 常明

Vegetation on the South Ridge of Mt. Hakusan

Tsuneaki GOTO

1. はじめに

白山の植物については、これまでもよく調査されており数多くの報告書や論文がある。また、白山の植生についても、正宗敬敬らの「Ecological Studies of Hakusan Quasi-National Park」日本自然保護協会(1961), 日本自然保護協会中部支部白山学術調査団編「白山の自然」石川県(1970),

水野瑞夫ほかの「自然環境保全地域候補地学術調査報告書～白山～」岐阜県(1972), 小野木三郎ほかの「白山北縦走路の植生～第1報野谷荘司山からもうせん平～」岐阜県博物館調査研究報告第1号(1980), 里見信生らの「白山地域自然環境調査報告書」石川県環境部(1981)などのほか、石川県白山自然保護センター研究報告にも種々の報告がなされており、宮脇昭「日本植生誌～中部～」至文堂(1985)に至って

岐阜県市区画地図

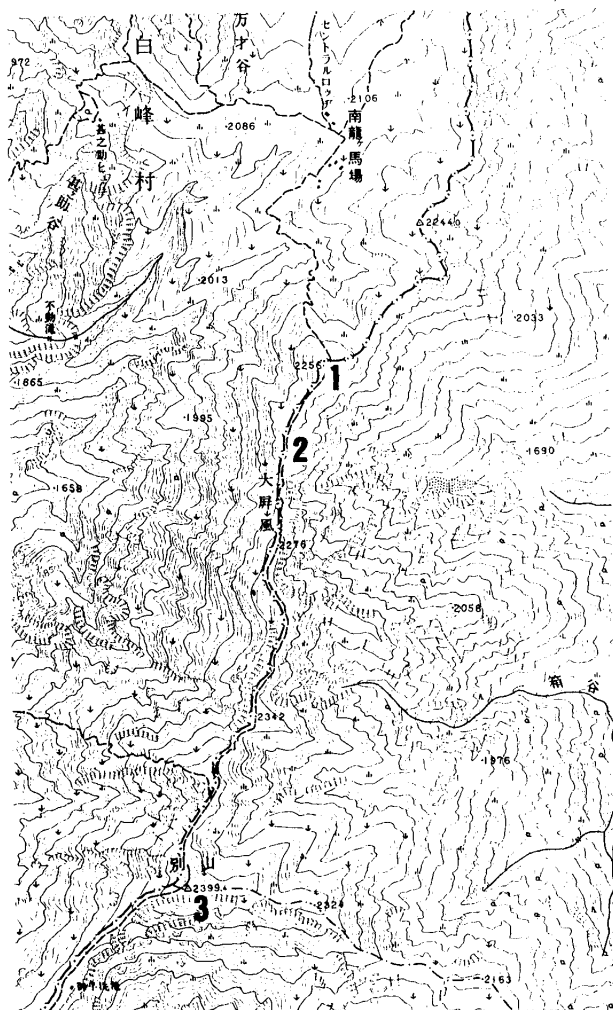


図1 調査地点

は、数多くの調査の集大成がなされている。これ以後にもいくつかの報告があり調査研究は、かなり進んでいると言えよう。しかし、白山山系の植生は変化に富み、細部にわたる調査は岐阜県側に限って言えば緒についたばかりであろう。

郡上郡白鳥町石徹白と白山室堂を結ぶ白山南縦走線は、行程26kmと長距離で、加えて尾根道のため水飲み場も少ないことから登山者も少なく、調査も困難な地域である。筆者は1989年8月11日に南竜ヶ馬場から石徹白へ縦走り予備調査、同年9月5日に白山室堂から別山往復をして3地点の調査をする機会を持ち、若干の知見を得たので報告する。調査にあたって、同行協力していただいた岐阜工業高等学校宮野昭彦教諭、植物の情報をご教示いただいた白山室堂の自然解説員、お世話になった関係営林署、環境庁自然保護局中部山岳国立公園管理事務所の方々などには心からお礼申しあげる。

2. 調査地の概況

調査地は白山山系の尾根筋で、白山主峰御前峰(2,702m)の真南にあたり、キャンプ地南竜ヶ馬場から白山南縦走線の別山道を登りつめた、油坂ノ頭、さらに南の天池および別山山頂部の3地点である。別山道は写真1でもわかるように尾根筋にあり視界が広く、また、自然がよく残されている。油坂ノ頭(2,256m)から別山山頂までは登山道が大野郡白川村、別山山頂(2,399m)から三ノ峰を経て二ノ峰の手前までは大野郡荘川村と岐阜県側を走っている。したがって今回の調査の対象としたのである。

石川県白峰村にある南竜ヶ馬場へは白峰村市ノ瀬駐車場から約4時間でたどり着く。登山客が集まる主峰群の基地室堂と比べて水の便が良く、室堂周辺の高山植物ほどはなやかさはないが、ニッコウキスゲ、イワイチョウが大変豊富で、クロユリ、ハクサンコザクラ、ハクサンフウロ、ミヤマキンボウゲ、シナノキンバイ、イワカガミ、ハクサンオオバコなども見られる。標高は約2,100mであるが、ここから南西へ約100mの標高差を赤谷川へ下り、さらに南へ油坂を登りつめるまでは石川県側である。油坂ノ頭には狭いハイマツ帯があるが、ほとんどが丈の低いオオシラビソ(アオモリトドマツ)に囲まれていて、北と西は石川県側、南と東が岐阜県側になっている。概して岐阜県側は傾斜が大きく、石川県側に比べると植物の生育が悪く、斜面の崩壊が目立つ。そして、大白川に注ぐ曲り谷に落ち込んでいる。さらに南の天池付近は、やや尾根が広がり中央部に小規模な池塘がある。そして湿地性の植物が一带の植生を形成している。ここから別山山頂までは、低いチシマザサ帯、高山性高茎草原、ミヤマハンノキ低木林、ハイマツ帯などと多様な植物相が続く、別山の山頂部は、ややまとまったハイマツ帯が見られ、それより北東の箱谷斜面では、コバイケイソウとスゲ類を主体とする高茎草原となっている。東側は白川村と荘川村の村境の尾根につながり、ハイマツ帯がのびているが、南側は急傾斜な岩壁となっている。

南竜ヶ馬場(2,100m)～赤谷川(2,000m)～油坂ノ頭(2,256m)～御舎利山(2,342m)を経て別山に至る登山者は、御舎利山を巻いて市ノ瀬へ下るか、南竜へ戻るのが大半であるが、さらに足をのびして三ノ峰から福井県大野市鳩ヶ湯へ下る場合もある。三ノ峰あたりはササ類におおわれた尾根道が多いが、ハクサンフウロはかなり目につく。三ノ峰から二ノ峰、一ノ峰と登山道は銚子



写真1 別山方面より北方の尾根筋

ヶ峰の登りになるまで福井県側に入り、そこから石徹白までは岐阜県に入るが、登山者の足跡より、カモシカの足跡が目立つほど利用者は少ない。

3. 調査方法

今回の調査では採取許可種に限られ、全種を標本にできなかったし、油坂ノ頭、天池、別山山頂の3地点で各1ヶ所ずつしか調査ができなかったが、植生の概観、群落の構成種、植生の断面図を記録した。方形区調査は、油坂の頭(2m×2m)、天池(1m×1m)、別山山頂(2m×2m)で行い、被度については、Braun-Blanquetの方法を、群度は、中西らの方法によって記録した。図1の1, 2, 3は調査地点である。



写真2 第1方形区(第1地点)



写真3
油坂ノ頭
から南方の
植生

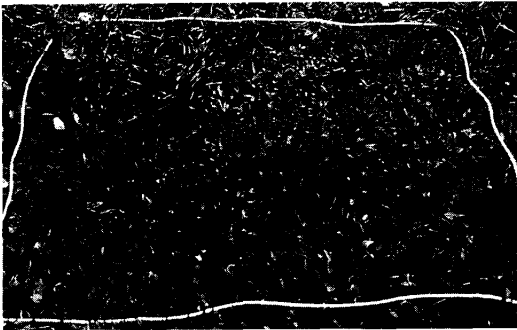


写真4 第2方形区(第2地点)

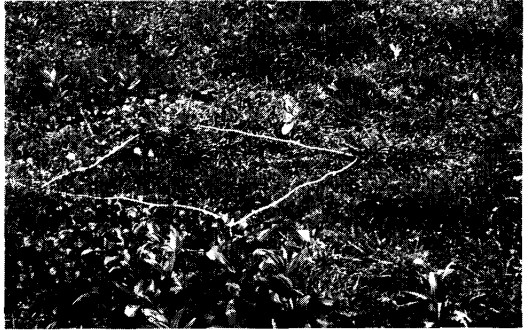


写真5 天池の北の植生



写真6 第3方形区(第3地点)



写真7 別山山頂より南東方面

4. 調査内容

(1)油坂ノ頭

No.1 植生調査表				岐阜県博物館自然分野 (G. P. M.)			
調査地	白山油坂ノ頭			図幅	白山		
地形	尾根, 斜面, 上部, やや凹地				1/25000 左下		
風当	中	日当	陽	海拔	2,250 m		
土湿	適湿			方位	南東		
土壌	砂岩様のレキ地			傾斜	30°		
1989年 9月 5日 (調査者) 後藤常明				面積	2 × 2 m ²		
階層	B ₁ 高木	B ₂ 亜高木	S ₁ 低木	K ₁ 高茎草本	K ₂ 草本	Mコケ	出現種数
高さ m			to 1 m	to 0.5m	to 0.2m		
植被率 %			20%	95%	5%		
種数			1	15	3		

階層	被度・群度	種名	階層	被度・群度	種名
S ₁	2 3	ミヤマホツツジ	K ₁	+	ノアザミ
K ₁	3 3	ニッコウキスゲ		+	オオバショリマ
	2 3	コバイケイソウ	+	ハクサンボウフウ	
	2 3	シシウド	+	ミヤマセンキュウ	
	2 3	シモツケソウ	+	ヤマブキシヨウマ	
	2 3	タテヤマスゲ	+	イブキトラノオ	
	1 2	ヒトツバヨモギ	K ₂	1 1	マイヅルソウ
	1 1	クガイソウ		+	ミヤマキスミレ
	1 1	カライトソウ		+	キバナノコマノツメ
+	ハクサンフウロ				

表 1

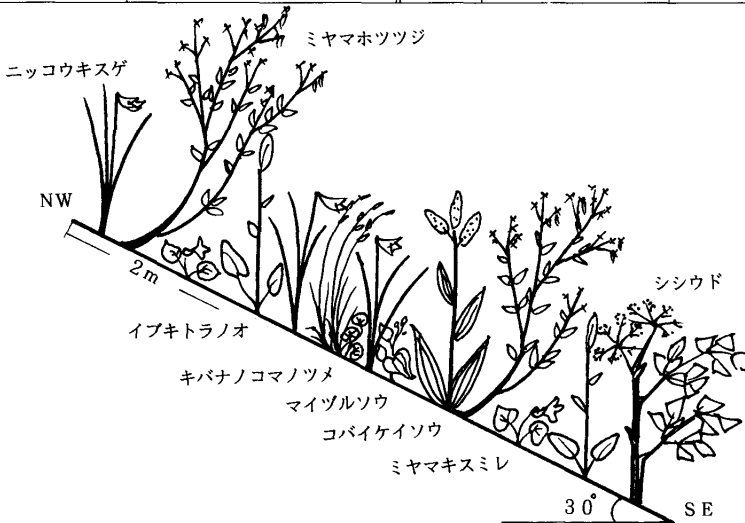


図 2 第 1 地点の植生断面

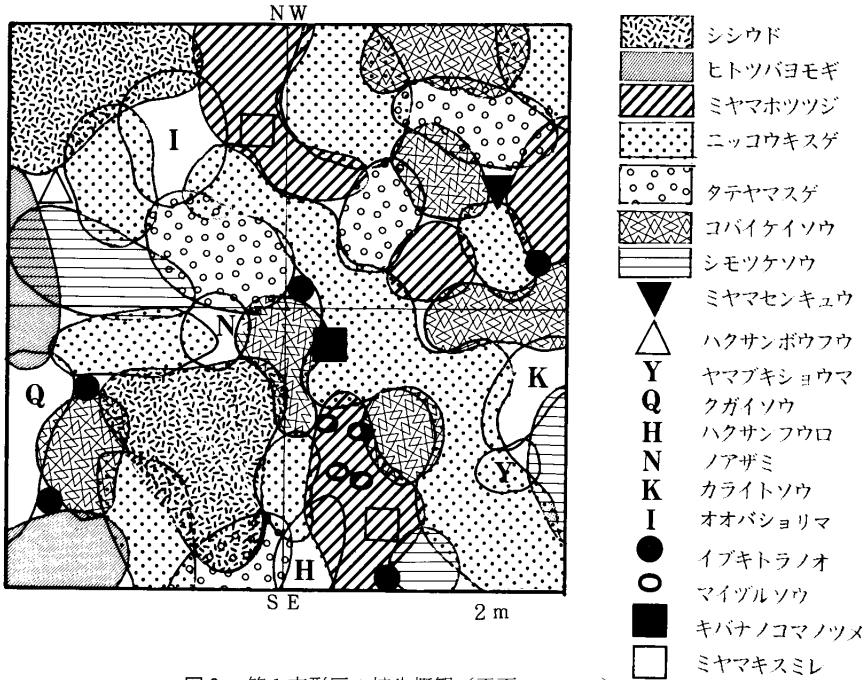


図3 第1方形区の植生概観（平面スケッチ）

油坂ノ頭(2,256m)に設置した第1方形区は、高山高茎草原植生の一例である。複雑多様な別山道の高山高茎草原植生は、場所によって構成種が異なり第1地点が典型的とは言えない。比較的普遍的な種はミヤマホツツジ、コバイケイソウ、オオバショリマなどであろう。第1方形区は、油坂ノ頭をはずして通る登山道の南東側斜面直下で約2,250mの標高に2m×2mの広さで設置した。付近の植物相には、調査表には出現しなかった種として、タテヤマウツボグサ、カンチコウゾリナなども見られた。

第1方形区の優占種はニッコウキスゲであるが、第1地点を少しはずれると尾根沿いには余りまとまって生育していない。唯一の木本ミヤマホツツジは別山道にはよく見られ別山山頂付近でも見つかる。コバイケイソウ、シシウド、シモツケソウ、タテヤマスゲは一帯に多い。調査日の9月5日には、コバイケイソウの葉が黄変しており、シシウド、イブキトラノオ、ノアザミ、ハクサンボウフウなどは種子をつけていた。ミヤマキシミレ、キバナノコマノツメ、マイヅルソウなどは種子さえ見られなかった。図2は第1方形区(第1地点)の植生断面の模式図である。また、図3は同所の植生概観を平面スケッチで示したものである。

(2) 天池

油坂ノ頭から別山に向かって南へ400m程進んだ所にチシマザサ類に囲まれた小さな池塘、天池がある。ここには、白山山系でも余り見られないハクサンオオバコがまとまって生育している。白山周辺では、室堂の自然解説員に教示された南竜ケ馬場付近と、もう一ヶ所、別山と三ノ峰の間にある標高2,215m程の御手洗池の南部分でハクサンオオバコを確認した。ハクサンオオバコを確認した場所の標高は、南竜ケ馬場(石川県)2,075m、天池(岐阜県)2,215m、御手洗池(岐阜県)2,215mであった。地形は南竜ケ馬場の場合、沢の出口の堆積土がある場所で草丈の低い陽地であるが、天池と御手洗池の周辺部は、雪田地域のやや湿った土がある陽地であった。いずれも、周囲より草丈が低く日当たりの良い、やや湿気のある場所である。

No. 2 植生調査表				岐阜県博物館自然分野 (G. P. M.)			
調査地	白山天池の北			図幅	白山		
地形	尾根、やや下、平地				1/25000 左下		
風当	弱	日当	陽	海拔	2,215 m		
土湿	適湿			方位	南北		
土壌	風化砂岩上に有機質土が堆積			傾斜	0°		
1989年 9月 5日 (調査者) 後藤常明				面積	1 × 1 m ²		
階層	B ₁ 高木	B ₂ 亜高木	S ₁ 低木	S ₂ 低木	K草本	Mコケ	出現種数
高さ m					to 0.3m	—	
植被率 %					95%	3%	
種数					10	2~4	

階層	被度・群度	種名	階層	被度・群度	種名
K	5 4	ハクサンオオバコ	K	1 2	Poa sp. (タカネイチゴツナギ)
	2 3	イワイチョウ		+	ハクサンボウフウ
	2 3	ショウジョウスゲ		+	アオノツガザクラ
	1 2	ホスゲ	M	1 2	不明, 数種
	1 2	エゾホソイ			
	1 2	ミヤマウイキョウ			
1 2	ミヤマリンドウ				

表 2

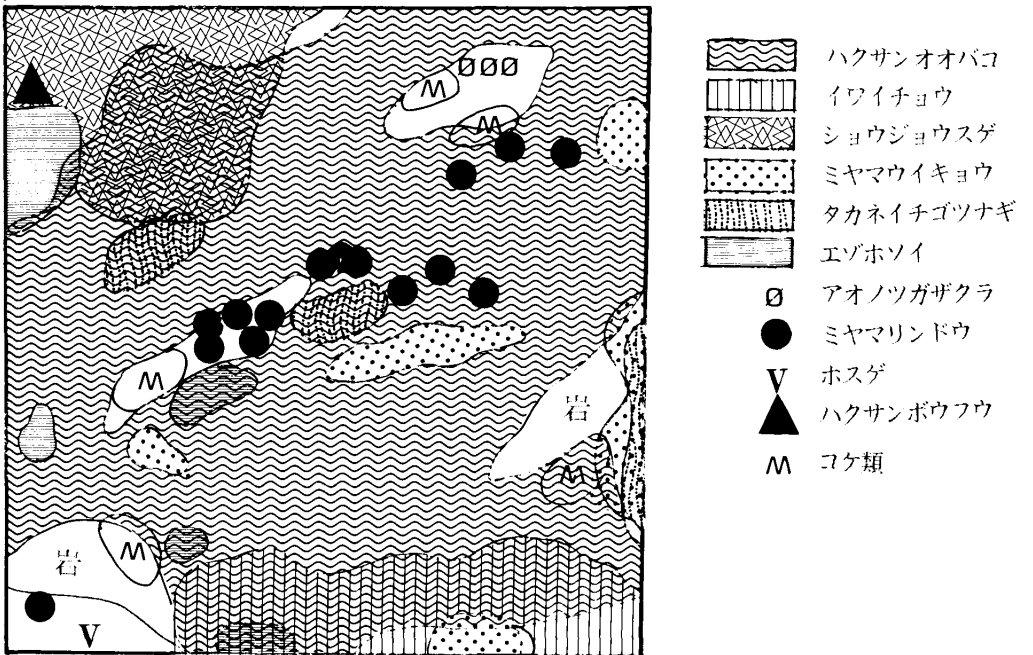


図 4 第 2 方形区の植生概観 (平面スケッチ)

天池の北 (2,215m) に設置した第2方形区は、雪田草原植生のアオノツガザクラ—ジムカテクラ
 スや中間湿原植物群集のイワイチョウ—ショウジョウスゲ群集、あるいは上級単位未決定の群落、
 エゾホソイ群集などとの共通種があり植生の類別が難しい。また、湿性雪田群落の代表であるイワ
 イチョウ、ショウジョウスゲがある反面、乾性雪田群落のアオノツガザクラ、ミヤマリンドウ、ミ
 ヤマウイキョウも見られる。付近の第2方形区よりやや乾燥するところには、ハクサンイチゲ、ハ
 クサンボウフウが目立つ。

第2方形区の優占種は、ハクサンオオバコで、9月5日には花は終わり果実をつけていた。イワ
 イチョウも花はほとんど無かった。イワイチョウについては、8月11日には、ほとんど蕾の状態
 でありながら霜の影響で葉先の部分がしおれている個体があった。花はわずかに咲いていた。ハクサ
 ンオオバコは種子のものが多く、花はほとんど残っていなかったことから、石川県側の南竜ヶ馬場
 より標高の高い天池のほうが花が早い。地形のちがひ、湿気の多少、雪解け時期などの他、植物そ
 のものの生理的条件にもかかわりがある。いずれにしても調査の必要がある。表2は、第2方形
 区の調査表、図4は、その植生概観 (平面スケッチ) である。

(3) 別山山頂

No.3 植 生 調 査 表				岐阜県博物館自然分野 (G. P. M.)			
調 査 地	別 山 山 頂 (南東斜面)			図 幅	白 山		
地 形	山頂斜面上部、やや凸地				1/25,000 左下		
風 当	中	日 当	陽	海 抜	2,390 m		
土 湿	適 湿			方 位	南 東		
土 壤	褐色の有機質が覆う			傾 斜	25°		
1989年 9月 5日 (調査者) 後藤常明				面 積	2 × 2 m ²		
階 層	B ₁ 高木	B ₂ 亜高木	S ₁ 低木	S ₂ 低木	K草 本	Mコケ	出現 種数
高 さ m			to 1.5m	to 0.5m	to 0.1m	—	
植 被 率 %			3.0%	75%	10%	3%	
種 数			1	7	6	α	
						14+α	

階 層	被度・群度	種 名	階 層	被度・群度	種 名	
S ₁	3 3	ハイマツ	K	1	ゴゼンタチバナ	
S ₂	3 3	ハクサンジャクナゲ		+		ツマトリソウ
	3 3	オオバスのノキ		+		マイヅルソウ
	2 3	ミヤマホツツジ		+		ノウゴウイチゴ
	2 3	コミネカエデ		+		オオバタケシマラン
	2 2	チシマザサ		+		ネバリノギラン
	+	ナナカマド	M	+	蘇 類	
	+	アカモノ		+	苔 類	
				+	地衣類	

表3

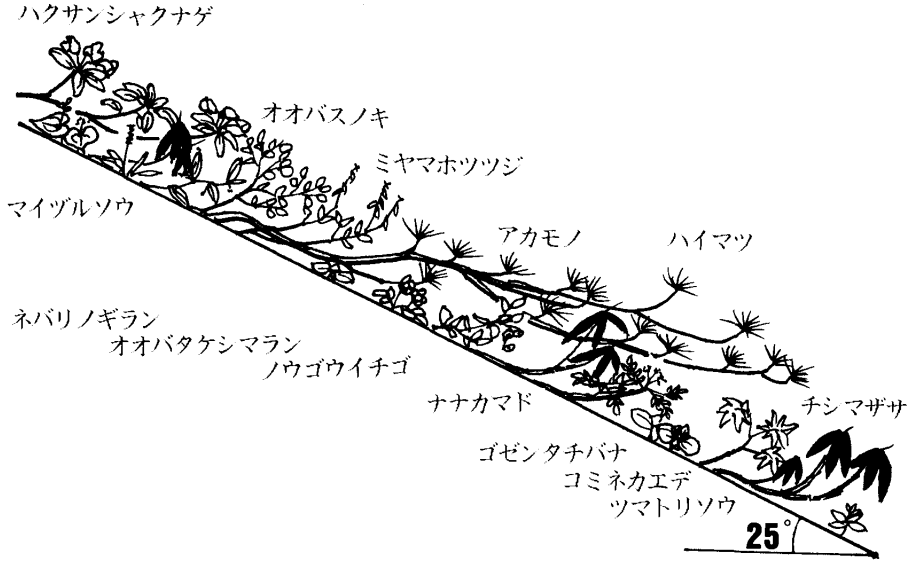


図5 第3地点の植生断面

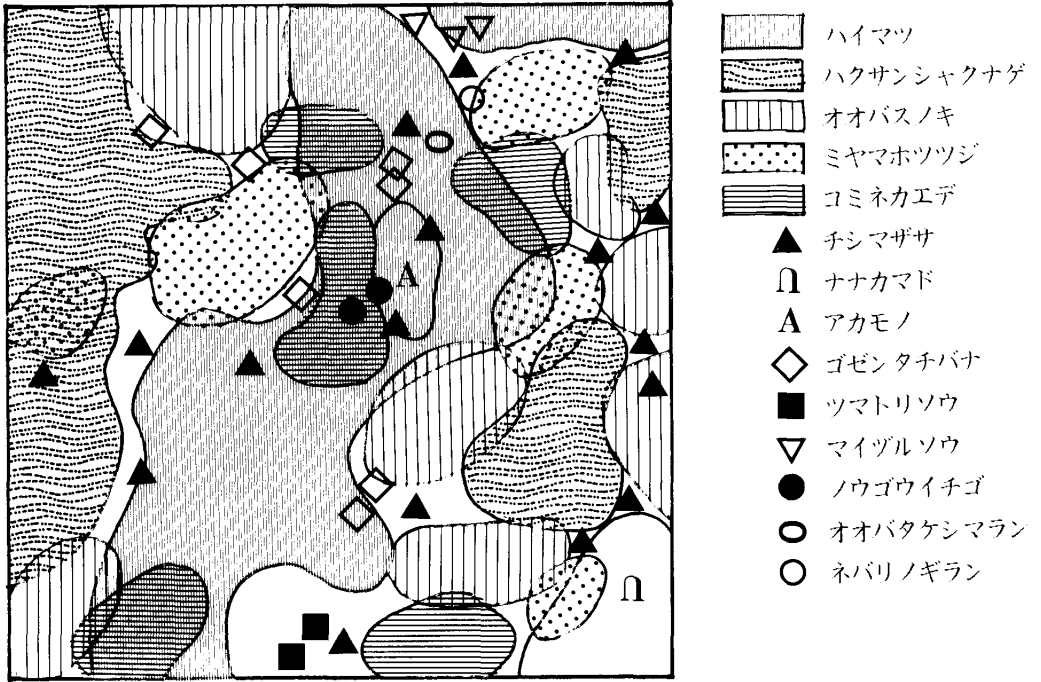


図6 第3方形区の植生概観（平面スケッチ）

別山山頂(2,399m)付近は、ハイマツ低木林が広がっており、植生は、亜高山帯針葉樹林のコケモモトウヒクラス、コケモモ-ハイマツオーダー、群集に属する。石川県(1981)によれば、別山山頂付近を高山帯自然植生の高山低木林とし、岐阜県(1977)も同様に類別している。

別山山頂直下の南東斜面に設置した第3方形区は、白山山系では南端のハイマツ低木林の植生を知る手がかりとなる。樹高の高い石川県側に対し、樹高の低い岐阜県側の植生を示す一例である。ここでの優占種はハイマツであるが、ハクサンシャクナゲ、オオバスノキの被度も大きく、ミヤマ

ホツツジ、コミネカエデ、チシマザサがこれにつづく。ハイマツ低木林の植生としては、種組成が豊富なところである。しかし、いずれもハイマツより樹高は高くない。図5は方形区付近の植生断面のモデルである。図6は第3方形区の植生概観（平面スケッチ）である。一帯の植被度は充実していて、ほとんどが100%である。また、一帯の現存植生は、潜在自然植生とほとんど一致し、自然そのものである。

5. まとめ

白山南縦走線の岐阜県側で植生調査の機会を得た。それによって次のことが明らかとなった。

- (1) 油坂ノ頭の南東斜面では、ニッコウキスゲ、コバイケイソウ、ミヤマホツツジが優占する高茎草原が見られる。
- (2) 天池の北側には、特異な雪田群落があり、ハクサンオオバコが優占するイワイチョウーショウジョウスゲ群集に類似した植生が見られる。
- (3) ハクサンオオバコは、岐阜県側の天池の北側と御手洗池にも分布しており、それぞれの標高は2,215mと同じである。花期は、標高が140m低い石川県側の南竜ヶ馬場とほとんど同じか、むしろ早く、ほとんどが果実をつけていた。
- (4) 別山の南西にある御手洗池付近がハクサンオオバコの西南限になる。
- (5) 別山山頂直下の南東斜面では、ハイマツ、ハクサンシャクナゲ、オオバスノキが優占する、コケモモーハイマツ群集が見られる。

今後の課題としては、さらに調査地点・調査時季をふやし、白山南縦走線の植生を明らかにすることがある。

Summary

We had an opportunity to investigate the vegetation on the south ridge of Mt. Hakusan on the side of Gifu Prefecture. The following are the results of our investigation.

- (1) On the southeast face of the top of Peak Aburasaka, *Hemerocallis middendorffii* var. *esculenta*, *Veratrum stamineum* and *Tripetaleia bracteata* gained an advantage over many other species. They made up the tall herb communities.
- (2) In the northern area of Amaike Pond, a unique flora of snow-patch was built up. In that place *Plantago hakusanensis* gained an advantage over other species, and the flora was analogous to that of *Faurio-Caricetum blepharicarpa*.
- (3) *Plantago hakusanensis* was also found in the northern area of Amaike Pond on the side of Gifu Prefecture and in the area around Mitaraiike Pond, which are both about 2,215 meters above sea level.

The blooming time was the same or a little earlier than at Minamiryugabanba (Ishikawa Prefecture), 140 meters lower than the above two areas.

In both areas *P. hakusanensis* plants almost bore fruits at the time of our investigation.

- (4) *Plantago hakusanensis* was not found in the area in the southwest of Mitaraiike Pond. The area around Mitaraiike Pond was the most southwestern area inhabited by *P. hakusanensis*.
- (5) On the southeast face just below the top of Mt. Betsusan, we observed a community of *Vaccinio-Pinetum pumilae*, in which *Pinus pumila*, *Rhododendron brachycarpum* and *Vaccinium smallii* gained an advantage over other species.

What we have to do here after is to continue our investigation of the vegetation on the other areas of the south ridge of Mt. Hakusan, and to continue our investigation in the other seasons of the year to obtain more accurate information on the various vegetation.

参考文献

- 鈴木時夫, 1970. 白山の植生分布と垂直植生帯. 白山の自然, 114—156.
- 水野瑞夫, 1972. 植生. 自然環境保全地域候補地学術調査報告書(白山): 81—84, 125—126. 岐阜県.
- 山田・里見, 1975. 白山と立山におけるハクサンオオバコの個体数, 石川県白山自然保護センター研究報告, 2: 47—53.
- 菅沼・芳賀・四手井・小松, 1976. 白山室堂平及び弥陀ヶ原の植生. 石川県白山自然保護センター研究報告, 3: 31—47.
- 橋本・里見, 1970. 白山植物目録(一), 金沢大学理学部付属植物園年報, (3): 31—44.
- 橋本・里見, 1971. 白山植物目録(二), 金沢大学理学部付属植物園年報, (4): 40—42.
- 橋本・里見, 1973. 白山植物目録(三), 金沢大学理学部付属植物園年報, (6): 15—28.
- 橋本・里見, 1976. 白山植物目録(四), 石川県白山自然保護センター研究報告, 3: 61—74.
- 里見信生他17名, 1978. 第2回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書, 石川県, 日本の重要な植物群落, 北陸版: II. 211pp 環境庁.
- 菅沼・芳賀・四手井, 1978. 白山南竜ヶ馬場の高山草原植生. 石川県白山自然保護センター研究報告, 4: 33—40.
- 辰巳・菅沼, 1978. 白山南竜ヶ馬場のハクサンオオバコ群落について, 石川県白山自然保護センター研究報告, 4: 41—45.
- 里見信生, 1978. 白山を分布の西南限とする植物. はくさん, 6(1): 3—5. 石川県白山自然保護センター.
- 大野・里見, 1979. 白山と立山におけるハクサンコザクラとハクサンオオバコの個体数の推移. 石川県白山自然保護センター研究報告, 5: 33—43.
- 小野木・成瀬・安藤, 1980. 白山北縦走路の植生第1報野谷荘司山からもうせん平. 岐阜県博物館調査研究報告, (1): 29—43.
- 里見信生, 1981. 植生. 白山地域自然環境調査報告書: 1—7. 石川県環境部
- 岩田悦行他5名, 1977. 岐阜県現存植生図, 3, 解説書. 岐阜県.
- 菅沼・辰巳, 1980. 白山室堂平の高山雪田植生の回復状況(1). 石川県白山自然保護センター研究報告, 6: 23—36.
- 秋山弘之, 1983. 白山の蘚苔類, 1 苔類・ツノゴケ類. 石川県白山自然保護センター研究報告, 9: 13—24.
- 菅沼・辰巳, 1984. 白山室堂平の高山雪田植生の回復状況(2). 石川県白山自然保護センター研究報告, 10: 49—61.
- 菅沼・古池・本多・米山・和久田・里見, 1984. 白山におけるハクサンコザクラの個体数の推定(第3報). 石川県白山自然保護センター研究報告, 10: 63—68.
- 石川県白山自然保護センター, 1986. 白山の自然誌6, 白山の高山帯: 2—12.
- 中野・安藤, 1987. 岐阜県大野郡白川村馬狩大窪の植物相. 岐阜県博物館調査研究報告, (8): 11—29.
- 永山・青木・牧野・小松・福地・甘露寺・広貴・渡辺・並木・小田, 1976. 白山の動植物調査報告, 植物. 早稲田生物, 18: 14—25. 早稲田大学生物同好会.
- 飛騨植物研究会(長瀬秀雄他), 1986. 飛騨におけるニッコウキスゲの産地. 岐阜県植物研究会誌, 3: 24—28.
- 二村・長瀬, 1986. 飛騨のシダ植物, 2. 各種の分布(I). 岐阜県植物研究会誌, 3: 14—23.
- 二村・長瀬, 1987. 飛騨のシダ植物, 3. 各種の分布(II). 岐阜県植物研究会誌, 4: 26—33.
- 二村・長瀬, 1988. 飛騨のシダ植物, 4. 各種の分布(III). 岐阜県植物研究会誌, 5: 39—49.
- 二村・長瀬, 1989. 飛騨のシダ植物, 5. 各種の分布(IV). 岐阜県植物研究会誌, 6: 12—24.
- 秋山弘之, 1984. 白山の蘚苔類, 2. 蘚類. 石川県白山自然保護センター研究報告, 11: 25—46.
- 正宗敬, 1965. 白山山系の植物帯. 白山国立公園白山地区(岐阜県側)の観光資源およびその保護開発に関する調査報告書: 3—64. 名古屋営林局.
- 沼田真他, 1969. 日本植物生態図鑑1, 築地書館.
- 沼田真他, 1970. 日本植物生態図鑑2, 築地書館.
- 中西哲他, 1983. 日本の植物図鑑<1>森林. 保育社.
- 宮脇 昭, 1985. 日本植生誌~中部~, 604pp + 付図, 付表. 至文堂.
- 岩田悦行他, 1978. 第2回自然環境保全基礎調査特定植物群落調査報告書. 岐阜県.
- 鈴木時夫, 1973. 植物社会学. 朝倉書店.
- 大井次三郎, 1975. 日本植物誌. 至文堂.
- 北村四郎他, 1974~1976. 原色日本植物図鑑. 保育社.

- 奥山春季, 1974. 原色日本野外植物図鑑1~7. 誠文堂新光社.
 牧野富太郎, 1975. 牧野新日本植物図鑑. 北陸館.
 木村敏雄, 1974. 新版地学辞典III. 古今書院.
 林 弥栄, 1983. 山溪カラー名鑑日本の野草. 山と溪谷社.
 林 弥栄, 1985. 山溪カラー名鑑日本の樹木. 山と溪谷社.
 長田武正, 1985~1986. 検索入門野草図鑑①~⑧. 保育社.
 光田重幸, 1986. 検索入門シダの図鑑. 保育社.
 清水健美, 1986~1987. 検索入門高原と高山の植物①~④. 保育社.
 宮脇・奥田, 1978. 日本植生便覧. 至文堂.
 井波一雄, 1966. 岐阜県の植物地理概説. 岐阜県の植物: 25-85. 大衆書房出版部.
 成瀬亮司, 1966. 白山, 採集コース. 岐阜県の植物: 151-159. 大衆書房出版部.



写真8 *Thelypteris querpertensis*
オオバショリマ



写真9 *Cacalia adenostyloides*
カニコウモリ



写真10 *Carex aphyllopus*
タテヤマスゲ



写真11 *Fritillaria camtschatcensis*
クロユリ



写真12 *Hedysarum vicioides*
イワオウギ

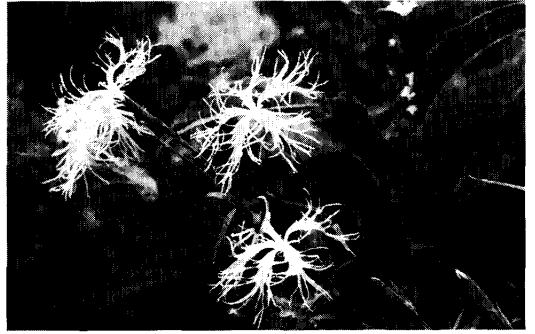


写真13 *Dianthus superbus*
エゾカワラナデシコ



写真14 *Sanguisorba hakusanensis*
カライトソウ



写真15 *Polygonum bistorta*
イブキトラノオ

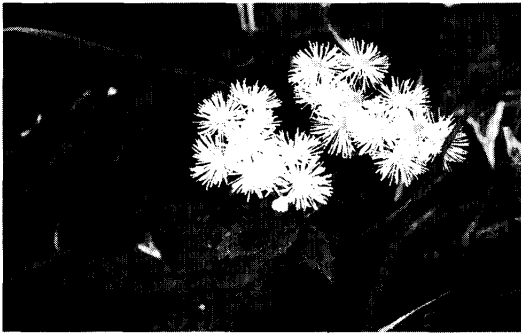


写真16 *Trautvetteria japonica*
モミジカラマツ



写真17 *Hemerocallis middendorffii* var.
ニッコウキスゲ



写真18 *Hieracium japonicum*
ミヤマコウゾリナ



写真19 *Prunella prunelliformis*
タテヤマウツボグサ



写真20 *Geranium yesoense* var.
ハクサンブウロ



写真21 *Artemisia monophylla*
ヒトツバヨモギ



写真22 *Scabiosa japonica*
マツムシソウ



写真23 *Hypericum kamschaticum* var.
シナノオトギリ



写真24 *Anemone narcissiflora*
ハクサンイチゲ



写真25 *Trollius rioderianus*
シナノキンバイ



写真26 *Gentiana nipponica*
ミヤマリンドウ



写真27 *Euphorbia togakusensis*
ハクサンタイゲキ



写真28 *Fauria crista-galli*
イワイチョウ



写真29 *Plantago hakusanensis*
ハクサンオオパコ



写真30 *Polygonum viviparum*
ムカゴトラノオ



写真31 *Veratrum oxysepalum*
コバイケイソウ



写真32 *Maianthemum dilatatum*
マイヅルソウ



写真33 *Campanula punctata* var.
ヤマホタルブクロ

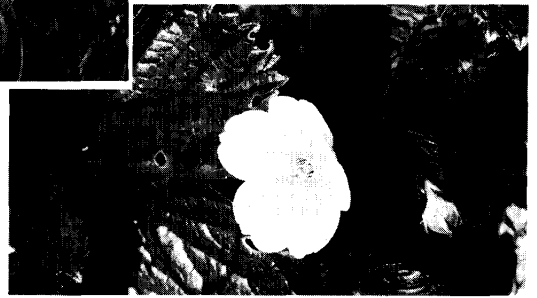


写真34 *Geum calthaeifolium*
ミヤマダイコンソウ



写真35 *Cornus canadensis*
ゴゼンタチバナ



写真36 *Aletris foliata*
ネバリノギラン